

小城市立岩松小学校
学校だより 第21号



岩松小だより

令和7年9月19日発行
発行者 校長 真子靖弘

大運動会を自分ごとと捉えたい

9/12(金)の6時間目に代表委員会が行われ、「大運動会のスローガン」について活発な議論が交わされました。今回は、代表委員会の部屋と3～6年生の各教室をオンライン会議ツール「Meet」でつなぎ、全員が参加できる形式をとりました。教室からチャット機能を使って代表者に意見を伝える子どももあり、運動会を創る当事者として、どの子どもも主体的に参加していました。

まもなく開催される大運動会企画委員会には、初の試みとして、教職員の代表とともに子どもも代表も参加します。「自分たちの学校は、自分たちでつくる!」という思いで、子ども代表としての責任をもち、納得するまで議論を尽くしてくれることを期待します。

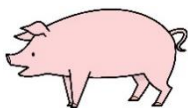


9月の人権教室

9/11(木)に人権教室を開催し、土井先生が「生命・健康」をテーマに講話を行いました。講話では、谷川俊太郎さんの詩に塚本やすしさんの絵を添えた絵本『しんでくれた』の読み聞かせを通じて、命の尊さについて考えました。

私たちは毎日、たくさんの動植物の命をいただいで生きています。子どもたちは、普段何気なく使う「いただきます」という言葉に込められた深い感謝の気持ちを再認識していました。

命は、目には見えないけれど、何よりも重く、尊いものである。自分の命も、そして周りの人たちの命も、大切にしていこう。そう、子どもたち一人ひとりが心に刻んだ、深く心に残る時間となりました。



夏休みの課題作品展示中

夏休み期間中に子どもたちが取り組んだ課題の作品展を、図書館横にて開催しています。自由研究や工作など、どれも子どもたちの探究心と創造力が詰まった作品ばかりです。短い期間ではありますが、ご来校の際はぜひお立ち寄りください。



教科書だけじゃない学び -自由な学びを追求-

先日、「ながさき東そのぎ子どもの村小学校・中学校」を視察して来ました。イギリスのサマーヒル・スクールを参考に、子どもたちが自ら考え、行動する力を育む教育を実践している学校(一条校)です。また、この学校の教育は、「子どもを真ん中に据える」という考えのもと、3つの原則で成り立っています。

① 自己決定の原則：子どもたちが学習や行事を話し合いで決め、所属するクラスも自分で選ぶ。

② 個性化の原則：一人ひとりの興味やペースを尊重し幅広い活動から学びを選択できる。

③ 体験学習の原則：「プロジェクト」と



呼ばれる体験型の授業がカリキュラムの半分以上を占めます。建築や農業、料理、演劇など、子どもたちがテーマを選び、主体的に活動する。

教科書中心の学習ではなく、体験を通して生きる力を育むことを重視している点が印象的でした。宿題やテスト、学年ごとのクラス分けがなくても学びが成立していることも興味深かったです。

今回の視察で、子どもたちの「やってみたい!」という気持ちを大切にすること、そして、子どもの主体性を引き出すことの重要性を改めて感じました。この貴重な経験を、今後、本校の教育活動にも生かしていきたいと考えています。



大運動会「団長」決まる!

9/11(金)に実施された選挙で団長が決定しました。2人の運動会への意気込みを紹介します。

赤組団長…原口陽向さん

私はみんなの期待に応えることができるように、1つ1つの活動に責任をもって取り組んでいきたいです。みんなが楽しめて、唯一無二の運動会にしたいです。私と一緒に楽しみましょう。

白組団長…池田陽菜里さん

自分のことだけでなく、周りの人たちも見られるように頑張ります。そして、思い出に残る最高の運動会にしたいです。

競技に参加する人も観覧している人も参加者みんなが楽しめる運動会になることを期待します。